

再評価結果（平成23年度事業継続箇所）

担 当 課：道路局国道防災課

担当課長名：三浦 真紀

事業名 函館・江差自動車道（一般国道228号） 茂辺地木古内道路	事業 一般国道 区分	事業 国土交通省 主体 北海道開発局
起終点 自：北海道北斗市茂辺地 至：北海道上磯郡木古内町字大平	延長 16.0km	
事業概要 函館江差自動車道は、函館新道に接続する函館インターチェンジから、江差町に至る延長約70kmの一般国道の自動車専用道路であり、北海道縦貫自動車道、函館新道と一体となって道南圏の高速交通ネットワークを形成している。 このうち、茂辺地木古内道路は、茂辺地インターチェンジから木古内インターチェンジに至る延長約16kmの区間であり、高速ネットワークの拡充による道南圏の物流効率化等の支援を目的とした道路である。		
H6年度事業化	H一年度都市計画決定	H10年度用地補償着手
H13年度工事着手		
全体事業費	約647億円	事業進捗率 33%
計画交通量	9,800台/日	供用済延長 0.0km
費用対効果 分析結果	B/C (事業全体) 1.0 (残事業) 1.7 総費用 (残事業/事業全体) 369/602億円 (事業費: 333/566億円) (維持管理費: 36/36億円)	総便益 (残事業/事業全体) 609/609億円 (走行時間短縮便益: 478/478億円) (走行経費減少便益: 95/95億円) (交通事故減少便益: 35/35億円)
基準年	平成22年	
感度分析の結果 残事業について感度分析を実施 交通量変動 : B/C=1.85(交通量+10%) B/C=1.45(交通量-10%) 事業費変動 : B/C=1.51(事業費+10%) B/C=1.81(事業費-10%) 事業期間変動 : B/C=1.52(事業期間+2年) B/C=1.72(事業期間-2年)		
事業の効果等 事業の必要性及び効果 ①日常活動圏中心都市へのアクセス向上 ・周辺都市から函館市へのアクセス向上が期待される。 ②農水産品の流通の利便性向上 ・松前町・福島町のマグロや知内産のニラなどの札幌・東京等への輸送効率化が期待される。 ③函館空港や新幹線駅へのアクセス向上 ・函館空港へのアクセス向上が図られ、空港利用客の利便性向上が期待される。 ・北海道新幹線木古内駅及び(仮称)新函館駅へのアクセス向上が期待される。 ④観光地へのアクセス向上 ・渡島西部及び檜山南部の観光地へのアクセス向上及び観光地を結ぶ高速ネットワークが形成され、観光の振興が期待される。 ⑤高次医療施設へのアクセス向上 ・函館市への高次医療施設への救急搬送時における迅速性・安定性の向上が図られる。 ⑥地域医療機関へのアクセス向上 ・函館市への産科医療機関へアクセス向上が見込まれる。 ⑦日常生活の利便性向上 ・渡島西部地域から医療・買物など日常活動圏中心都市である函館市へのアクセス向上が期待される。 ⑧CO2排出量の削減 ・当該道路の整備により自動車からのCO2排出量が削減される。		
関係する地方公共団体等の意見 地域から頂いた主な意見等： 函館市など2市16町の首長などで構成される北海道縦貫自動車道建設促進道南地方期成会等より、整備促進の要望を受けている。		

知事の意見：

函館・江差自動車道は函館新道に接続する函館ICから江差町に至る高規格幹線道路であり、周辺都市から函館市へのアクセス向上により、物流の効率化が図られ、道民生活の向上や経済・社会活動の活性化に寄与することから、当該事業の「対応方針（原案）案」とおり「見直し継続」とすることについては異議はない。なお、事業の実施にあたっては、環境への影響を最小限にとどめること。また、徹底したコスト縮減により総事業費の圧縮を図るとともに、これまで以上に効率的・効果的に執行し、早期供用を図ること。

事業評価監視委員会の意見

当委員会に提出された再評価原案準備書及び事後評価結果準備書の対応方針については、北海道開発局案を妥当と判断する。なお、今後は以下に留意されたい。

- 1 道路事業における3便益以外の評価にあたっては、地域の特殊性等を考慮した評価をさらに検討するとともに、定性的効果については、客観的な説明ができるよう努めること。
- 2 鉄道などの公共交通機関が少なく、広大な北海道においては、道路は重要な役割を担っており、ネットワークがつながって本来の効果を発揮するものである。よって、現況及び事業化済みの箇所のみネットワーク設定で、将来交通需要推計を行うのは疑問であり、ネットワーク設定のあり方について、引き続き検討すること。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

- ・平成16年12月 函館市が誕生（旧函館市、戸井町、恵山町、楳法華村、南茅部町が合併）。
- ・平成17年4月 森町が誕生（旧森町、砂原町が合併）。
- ・平成17年10月 八雲町が誕生（旧八雲町、熊石町が合併）。
- ・平成18年2月 北斗市が誕生（上磯町、大野町が合併）。
- ・平成21年10月 北海道縦貫自動車道の八雲IC～落部IC間が開通。
- ・平成21年11月 函館江差自動車道の北斗中央IC～北斗富川IC間が開通。
- ・平成27年度末の完成をめざし北海道新幹線新青森駅～新函館駅間の整備を推進中。

事業の進捗状況、残事業の内容等

平成6年度に事業化され、用地進捗率70%、事業進捗率33%となっている。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

引き続き、早期供用に向けて事業を進める。

施設の構造や工法の変更等

車線数の見直しや不良土対策、法面工の見直しによりコスト縮減を図っている。

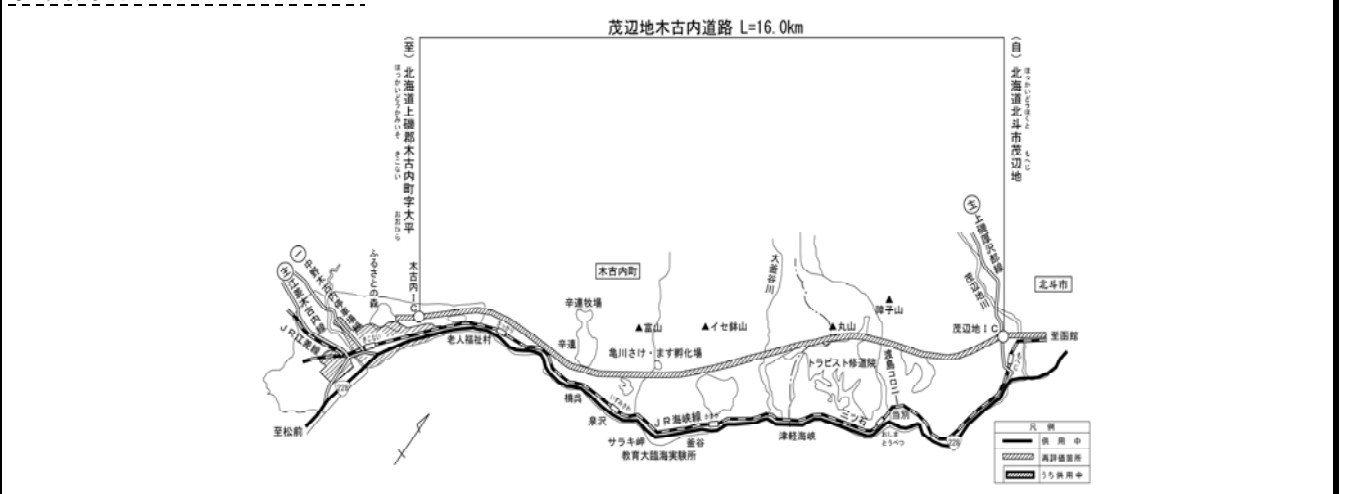
対応方針

見直し継続

対応方針決定の理由

事業の目的及び効果は計画時点と同様に確保されているため事業の必要性・重要性に変化なく、事業内容の見直しにより投資効果も確保されているとともに、現時点では定量化できない医療・観光に関連した効果も見込まれるため。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。